

一人一人が生き生きと活動する  
明るく楽しい学校



# かいどい



学校だより令和3年度 第9号

令和3年11月30日

<http://schit.net/tama/eskaidori>

多摩市立貝取小学校  
校長 小川 貴史

## 人権週間

校長 小川 貴史

11月20日(土)に貝取小学校の開校10周年を記念して、第1学年から第4学年までの児童は代表委員会が企画した記念集会に、第5・6学年の児童は記念式典に参加しました。記念集会では、代表委員会によるクイズや5年生の合奏、ゲストティーチャーとしてお越しいただいた前副校長佐藤先生からのお話(貝取小学校の開校当時のことや校歌に込められた意味など)を聞きました。記念式典では、多摩市長阿部裕行様をはじめ、PTAや地域の方々にもご列席いただきました。式の冒頭、自分たちの思いを伝えたいと、第5学年の児童が合奏「世界はあなたに笑いかける」を披露し、式の後半では、第6学年の児童が記念式典のローガン「いつまでも共に輝け～緑豊かなみんなの母校～」を踏まえ、統合前からこれまでの10年間の変遷と貝取小学校の「誇り」をメッセージと歌で発表しました。限られた時間での式典でしたが、多くの方々のご協力のおかげで、とても充実した式典となりましたこと、感謝申し上げます。

ところで、12月4日(土)から10日(金)までの一週間、「第73回人権週間」が実施され、今年のスローガンは、『「誰か」のことじゃない』です。また、10日は、「人権デー(Human Rights Day)」です。人権週間の一週間は、全国的に人権啓発活動を展開し、人権尊重思想の普及高揚を呼びかけます。

しかし、今なお、新型コロナウイルス感染症の感染者等に関する偏見・差別、インターネット上における誹謗中傷、いじめや虐待、外国人や障害のある人などに対する偏見・差別など、様々な人権問題が依然として存在しています。

人権(human right=人間の権利)は、人が生まれながらに持っている大切な宝であるといわれています。人として尊ばれ、一人ひとりが持つとされている人権は、いつでも、どこでも、そして誰にでも、同じように守られるはずのものです。すなわち人権は、一人ひとりが人間として大切にされて生きていくためには、なくてはならないものです。

私たちは、一人ひとりの人権を尊重していかなければなりません。そのためには、人を思いやる優しい心を持つことが必要です。本校では、「言葉が、人を助ける」を生活指導の重点目標として掲げています。人が口にする言葉には、とても大きな力があります。言葉は、人を傷つけたり、助けたりするととても不思議なものです。どんな言葉をつかうとよいか考え、児童同士がお互いに温かい言葉をかけて、人を思いやる優しい心を持つよう指導しています。さらに、将来を担う子供たちにこのような心を育むため、あらゆる教育の機会を利用し、保護者や地域の方々と協力し合いながら子供たちに心の教育を行っていきたいと考えています。今後ともよろしくお願いたします。

